

のりのり学会の活動と今後ー市民がつくる公共交通社会をめざしてー

市民団体「のりのり学会」 塩島翔・奈賀由香子

https://www.facebook.com/profile.php?id=100064373004772&locale=ja_JP

norinori.gakkai@gmail.com

はじめに

のりのり学会とは、前橋市市民活動センターの利用登録団体（登録番号 376）で、環境の側面から、CO2 削減のために脱マイカー、公共交通を利用しようという、乗り物に「のりのり」しようという主旨で会の名前をつけた。

一般参加者が交通に関する意見を出し合う定例会の実施、交通に関する調査、研究、企画、啓蒙啓発活動を行っている。

最初は、群馬県温暖化防止センターののりのり隊として、勉強会や意見交換会などを行って活動を始めた。その後、平成 30 年に規約を作成し、以後、定例会だけでなく、フォーラムの開催や勉強会の参加、マイクロツーリズムなどのフィールドワーク（現地踏査）を行うようになった。本発表では、のりのり学会の主の活動を紹介します、当会の今後の活動について私見を述べる。

1. 定例会の開催

当会は、毎月第 1 金曜日 19:30 から 21:00 まで、元氣 21・2 階前橋市市民活動支援センター（M サポ）会議室にて定例会を開催している。

定例会では、最近の交通に関する話題の共有、県内の他団体との連携について、共催イベントなどの打合せを行っている。

また、前橋市に出前講座を開催してもらい、交通政策課と意見交換をしたり、県議会議員宮崎たけし氏と意見交換したりするなどの勉強会も実施している。

2. 単独事業

2.1 のりのり仕事フォーラム

2019 年 8 月 8 日に前橋市富士見の古民家 IRORI 場にて、中高校生を対象に、群馬県に在住・在勤している交通に関する仕事をしている方に、どんな仕事をしているのかを紹介するフォーラムを開催した。

交通事業者から水野羊平氏（永井運輸）・交通デザイナーの立場から井上晃良氏（Tricon Design AG）・交通に関する研究者の立場から藤本理弘氏（長野大学・高崎商科大学講師）の 3 名にプレゼンターに、バス会社の日やバス位置情報のオープンデータ化、車両デザインなどについて紹介していただいた。

2.2 フィールドワーク（現地踏査）

本会では、群馬県内の公共交通の実態調査と会員の懇親を目的に、群馬県内の公共交通をつかって具体的に「ここまでいける実証ツアー」を実施している。

2020 年度は、伊勢崎市のコミュニティバスに乗り、世界遺産田島弥平旧宅へ行き、無料の「島チャリ」を借りて散策をした。

2022 年度は、関越交通のフリー切符を利用して伊香保・利根地区を巡ったり、東部地区の実証実験バスやわたらせ渓谷鉄道のイルミネーションを見学したりした。

2023 年度は「ぐんまワンディーパーパス」を利用し、吾妻線・JR バス・草軽交通を乗り継ぎ、高崎・草津・軽井沢を一筆回りで巡ったり、上信電鉄沿線を巡ったりした。また、前橋市中心商店街周辺を踏査し、当日開催されていたイベントの様子など街の様子や太陽鐘（岡本太郎

作) などを見学した。

3. 共催・後援事業

当会以外に、群馬県内には、上毛電鉄友の会・2015年からの生活交通をつくる会・わたらせ渓谷鐵道市民活動協議会・交通からまちづくりを考える会前橋など交通に関する市民活動がある。会員のなかには、複数の団体に参加している者がいるため、2022 年頃から各団体連携をとりながら、フォーラムなどの開催をしている。

3.1 映画『でんしゃを止めるな』上映会

銚子電鉄作成の映画『電車をとめるな-呪いの6. 4km』の上映会を、2021 年 3 月 14 日(日) 13 時 30 分 と 16 時(各回 28 名) の 2 回、シネマハウス前橋にて、上毛電鉄友の会と共催で上映会を開催した。

当日は、銚子電鉄社長の竹本勝紀氏によるビデオレターの上映および、常務取締役柏木亮氏による舞台挨拶があった。

コロナ禍による感染防止対策がさかんな中であつたが、いずれの回もほぼ満員となる集客があつた。

3.2 「SDGs とまちづくりフォーラム～絶体絶命！本当にいるの？バス・電車～」

2022 年 11 月 23 日に、群馬県スマートムーブ推進協議会主催でフォーラムを開催した。このフォーラムは先に述べた五団体の共催になっており、開催にあたり各団体から実行委員が選出され準備を行った。

フォーラムでは、吉本興業所属の群馬住みます芸人で SDGs 芸人のアンカンミンカンの富所哲平氏に『SDGs からみた公共交通』というテーマで講演を行い、前橋工科大学の学生にファシリテーターを務めてもらいながら、宇都宮の LRT 開業や群馬の交通の不便な点、公共交通を残すために税金を投入する必要があるかなどの

ワークショップを行い、最後に全体会で各班の報告を行った。

また、永井バスの新型車両、eCOM-10 などの次世代型モビリティなどの試乗・展示も行った。

3.3 公共フォーラム「ぐんまの公共交通をまもるために」

2023 年 11 月 19 日共愛学園前橋工科大学にて、名古屋大学加藤博和教授による基調講演「公共交通を創り守り育てるために」と永井バスの新型路線バスおよびナローモビリティの展示を行った。このフォーラムは群馬県スマートムーブ協議会の主催であつたが、当会会員が実行委員として参加し運営に関わつた。

おわりに

宇都宮市の LRT 開業など明るい話題もありつつ、不採算路線の見直し・運転士不足による運転本数削減など、交通課題が算出している今日、今後も県内の交通を考える団体と連携をとりながら、過度に自家用車に頼らない公共交通と共存したまちづくりを提言していきたい。

参考文献

群馬テレビ『ニュース eye8』「前橋市公共交通を考えるフォーラム」2019 年 8 月 9 日放送
上毛新聞「電動車に試乗 環境を考える—工科大でフォーラム」2022 年 12 月 19 日
前橋市交通情報発信サイト前橋交通ポータル「「SDGs とまちづくりフォーラム～絶体絶命！本当にいるの？バス電車～」を開催します！」
<https://maebashimobility.jp/396>
上毛新聞「公共交通を考える 前橋でフォーラム」2023 年 11 月 20 日